



センター試験終了 — 3年生健闘する —

本格的な受験シーズンの皮切りとなる大学入試センター試験が1月17・18日に行われ、全国の会場で約56万人の受験生が試験に臨みました。

本校3年生は、県内9会場（鹿児島大学各学部・志学館大学・県立短大）に分かれて受験しました。両日とも、天候に恵まれ穏やかな雰囲気の中、受験することができました。本校3年生は体調不良や特別なトラブルもなく、2日間の試験を無事に終えることができました。



全国平均は昨年並みか

5教科900点集計の予想平均点は文系が540点（得点率60%）、理系が563点（得点率63%）となりました。前年比は、文系+8点、理系-5点で、文系は平均点アップ、理系は平均点ダウンの予想となりました。予想平均点を科目別にみると、国語の平均点が大幅にアップ（+17.7点）したものの、数学ⅡB、地理Bなどで平均点がダウン（それぞれ-11.9点、-9.1点）しました。

（バネコ・ポレーヨ データネットより）

個別学力試験に向け万全の対策を

現在3年生は、自己採点結果と進路検討会をうけ、担任の先生との面談を経て、受験校の絞り込みを行っています。

また、1月20日からは二次対策特別授業が始まりました。2月25日（～26日）に行われる国公立大

学の個別学力試験対策を中心に、各科目の演習に励んでいます。合格することを信じて、受験校の過去問から出題傾向を分析し、万全の対策を行うことが大切です。国公立大学では、前期日程だけではなく、後期日程（3月12日～13日）まで受験できます。最後まであきらめず粘り強く努力を続けることが大事です。

国公立大学の出願期間は、1月26日から2月4日までです。3年生の健闘を祈ります。

「センター試験まであと1年。今まさに受験生」

— 2年生進路講演会 —



1月21日に2年生を対象にした進路講演会が、本校講堂で行われました。

まずは「50期生センター試験ドキュメント」として、3年生のセンター試験当日の様子が写真で紹介されました。本番の雰囲気や先輩方の様子を目の当たりにした2年生は自分達が受験する場面をイメージできたのか緊張感を高めていたようです。次に、進路主任の西中間先生から、3年生の自己採点結果等を受けて、2年生に対するアドバイスがありました。最後に、各教科の9人の先生方から、学習に関する具体的なアドバイスが、熱い口調で語られました。

2年生の各教室には、『センター試験まであと1年。今、まさに受験生！～土日は学習室で勉強しよう！～』という標語が掲示されています。この講演会をきっかけに、2年生が受験生として意識を高く持ち、学習していくことを期待します。

【1 学年部から】

平成 27 年が始まり 1 か月が経ちます。2 年生への進級に向けて準備をする時期となりました。53 期生という後輩も迎えなければなりません。部活動や学業、学校生活において後輩の模範となるよう、身だしなみを整えたり、勉強や部活動に一生懸命取り組むことで自分自身を磨いていきましょう。

大学入試センター終わる

去る 1 月 17 日・18 日に、鹿児島市内の 9 会場で 50 期生が大学入試センター試験を受験しました。国公立大学だけでなく、私立大学や短期大学の多くがこの大学入試センター試験を利用しています。3 年生はいよいよ入試本番となりました。

右の表は、今年のセンター試験の時間割です。今年度から数学と理科が「新課程」の試験となり、昨年度までと受験方法や試験内容が変わりました。51 期生が受験する来年のセンター試験は全教科とも新課程の内容となります。

この「新課程」というのは、平成 21 年 3 月に文部科学省から告示されたもので、言語活動に重点を

置いたものになっています。以前は知識を暗記することが中心となりがちだったものが、読んだり書いたり話したりして、論理的にものごとを考える力を養おうとするものです。したがって新課程の試験では「考える」ことに重点を置いた問題が出題されるようになってきています。ただ単に解き方や暗記項目を「覚える」だけの勉強をしている人は大学入試に対応できなくなります。文法や公式、出題文の前後のつながり等を利用しながら、なぜそのような解答になるかを考える勉強をしていきましょう。

試験問題に挑戦してみましたか？

ところで、新聞やインターネットで公開されている、今年の大学入試センター試験の問題を解いてみましたか？

数学 I や物理基礎・化学基礎等は学習した内容の全部または大部分が終わっています。その他の科目についてもチャレンジすることはできます。時間を作って挑戦してみましょう。今の自分にどれくらいの実力があるかが分かります。2 年後には皆さんが受験する試験です。本番の試験に向けて学力をつけていきましょう。

後輩を迎えるにあたって

あと 2 ヶ月あまりで 53 期生が入学してきます。先輩として模範を示さなければなりません。頭髪や服装、挨拶や日常の行動、勉強や部活動に対する姿勢は後輩に誇れるものでしょうか。自分自身の行動を振り返り、もし改善が必要であればすぐに改めていきましょう。「変わる」ことができれば、現状が改善し、いい方向に進むことでしょう。ほんの少しだけでも緊張感を高め自分自身を戒めることで、4 月からの高校生活がより充実したものになるようにしてください。

期日	出題教科	出題科目	試験時間
1/17(土)	地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」	2 科目受験 9:30～11:40
		「地理 B」「現代社会」 「倫理」「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	1 科目受験 10:40～11:40
	国語	「国語」	13:00～14:20
	外国語	〈筆記〉	15:10～16:30
〈リスニング〉		17:10～18:10	
1/18(日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数学①	「数学 I」 「数学 I・数学 A」	11:20～12:20
	数学②	「数学 II」 「数学 II・数学 B」	13:40～14:40
	理科②	「物理」「化学」「生物」 「地学」	2 科目受験 15:30～17:40
1 科目受験 16:40～17:40			

【2学年部から】

去る1月17日(土)・18日(日)、3年生はセンター試験を終えました。比較的好天に恵まれ、順調に受験したとのことですが、自己採点を経て今後の出願へと、まだまだ気の抜けない日々が続いています。

1年後は皆さんの番です。入学したのがつい先日のように思える人もいるでしょうが、これからの1年はますます加速して感じられるはずです。皆さんに受験生としての自覚を促し、やる気を出してもらうため、21日(水)、講堂にて「進路講演会」を開催しました。先生方の熱い思いがよく伝わったのではないのでしょうか。今回はこの講演会の内容を採録して掲載します。

進路指導部から(西中間先生)

今年のセンター試験は易しかったと言われるが、得点できているのは上位層のみ。二極化が進んでいる。伸びていない人の特徴は、①苦手教科がある人、②理科・地歴が後回しになった人である。これまで「成功体験」しかなかった皆さんの中には、「なんとかなる」と勘違いしている人がいるのでは?これから大切なことは、①今すぐ始めなさい。②考える勉強をしまさい。本質的な部分を大切に。③すべての教科をバランスよく。得意教科による「苦手教科のカバー」は、できない。

国語科から(上赤先生)

センター試験の問題を見よ。教科書レベルであり、今の授業の内容がそのまま出題されている。古典は文法(文法)、ボキャブラリー(語彙)。文法力は多くの者が既に身に付けた。これからは語彙を増やせ。現代文はコミュニケーション力。授業で級友と議論し身につけよ。理系の諸君は記述問題をおろそかにするな。記述力とセンター試験の力はつながっている。成績がいい人はポジティブな言動をするものである。授業を大切に。

数学科から(山口先生)

「ふるさと」を作れ(今までの勉強を見直せ)。文系だからといってセンターで易しい問題は出ない。理系もこれから数Ⅲの内容が進んでいく。難しいがどれだけ早く終われるかが勝負である。授業もスピードアップしていく。いずれにせよ、「圧倒的基礎力」を身につけよ。

英語科から(田代先生)

「ターゲット」「600選」「アップグレード」、センター試験の問題の90%はこれに載っていた。覚えなさい。やるしかない。

化学から(小牧先生)

「粒」を考えよ(粒子の動きを考えよ)。有機化学がこれから出てくるが、よりいっそう役立つはずである。ものの本質的な見方・考え方が大事である。公式の丸覚えで終わるな。

物理から(谷口先生)

センターの問題には「答えが書いてある」。あとはそれにどれだけとりつけるか。過程を自分の力で考えよ。意味のない課題の取り組みをするな。今年のセンター試験では範囲は広いが簡単になった。覚えるだけでなく、本気で考え、取り組み。

生物から(日高先生)

授業に参加してしっかり暗記&理解。ヒトの脳は忘れるようにできている。だから復習が大切。暗記事項は莫大。だから日々題、模試、それぞれの考査ごとに内容をまとめよ。文系も、センター試験は問一答ではない。複数の知識の組み合わせが必要。深海生物の如く、知識をつかんだら放すな。

日本史から(植村先生)

3分の1は近現代から出題されている。平均は60点台半ば。今はなかなか時間が取れていないだろうが「チェックリスト」を着実にこなそう。

世界史から(中堀先生)

授業を大事に。板書を丸写しにすることばかり考えるな。世界史Bの平均は高く、得点しやすい。ただし覚える量は多い。しっかりまとめること。授業の取り組みとセンターの出来は連動している。

地理から(永盛先生)

①地図で考える、②なぜそうなったか考える、③最低限の知識はしっかり、④10分でも復習を。

最後に(上皇先生)

朝早く来て廊下や教室で落ち着いて自習している人は、これまで必ず合格してきた。がんばろう。

センター試験まで1年。今まさに受験生!

～土日は学習室で勉強しよう～

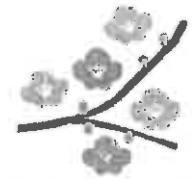
大学入試に臨む皆さんへ

柳田 亜矢

私が鹿児島中央高校在学中は激動の時代でした。国内では高2の冬に年号が昭和から平成に変わりました。昭和天皇の崩御に対して、様々なメディアが1つの時代の終焉であると報じていました。世界に目を向けると、高3の11月にベルリンの壁が崩壊し、戦後40年以上続いた冷戦に事実上の終止符が打たれました。壁の崩壊のきっかけは、1985年にソ連共産党書記長に就任したゴルバチョフ氏の出現にあったと言われていています。彼はペレストロイカ(改革)に着手し、その動きが東欧諸国のドミノ倒しのような民主化へとつながっていきました。

高校生のころの私は、この歴史の大きな流れに心を揺さぶられました。テレビで見る自分と同じ年頃の若者たちが、「自分たちが国を変えるんだ」という気概を持ち、目をきらきらさせて活動している姿に胸が熱くなったことを、今でもはっきり覚えています。私が外国語学部ロシア語学科を受験した理由は、語学を勉強して、あの若者たちのように世の中を変える力の中に身を投じたいという思いがあったからです。当時は自分が母校の教員になるとは思ってもみませんでした。第1希望の大学に不合格となり、様々な決断を経ての現在の職業に後悔はありませんが、日常に追われている今、高校生の頃の世間知らずで純粹だった自分が恥ずかしい反面、懐かしくも感じます。

現在も国内、国外共に激動の時代だと言えらると思います。そういう時代はプラスの方向に世の中を変えるチャンス時代だとも思います。鹿児島中央高校の皆さんは、これからの社会を引っ張る人材になるはずで、これから二次試験に臨む皆さんが難関を突破し、よりよい社会を作る力となることをOGとして、心から期待しています。



感謝の気持ちを忘れずに、最後まで粘って「合格」を勝ち取ろう！

1月17・18日の「大学入試センター試験」を終え、ゆっくりとしている時間もなく、慌ただしく二次試験に向けて引き続き受験勉強に取り組んでいると思います。これからの取り組み次第で合否が決まります。最後まで諦めないで頑張ってください。

個別学力検査(二次試験)に向けて

「大学入試センター試験」で多くの教科を受験してきましたが、「個別学力検査(二次試験)」では教科・科目が減って、得意の教科・科目を受験しますので、取り組みやすい反面、多くの受験生が同じ条件ですので、逆に厳しい状況になります。「前期」「後期」「中期」の組み合わせで最大3校の受験が可能ですが、前期日程でできるだけ合格できる大学を志望することが一般的です。後期日程については、定員が少なく志願倍率が高くなる傾向にあります。実際は前期日程合格者が受験しないため、合格のチャンスは決して小さくありません。また、前期日程から後期日程の間は2週間以上もあり、弱点分野の克服なども可能です。最後まであきらめないことが合格につながります。

私立大入試について

私立大については、2月以降に出願できたり、地方入試(学外試験)や方式別入試など、様々な入試のスタイルがあります。よく情報を収集し、保護者と相談してください。

最後に...

大学進学には経済的な負担も伴います。まず受験の際に、受験料のほかに、交通費・宿泊費などが発生しますし、合格が決まれば入学金や授業料、場合によっては下宿費用、私立大では一時金などの支払いについても考えなければなりません。そのため、「どんな大学を、何校受験するのか」の受験計画について、家庭でも十分話し合い、同意を得ておく必要があります。何かわからないことがありましたら、必ず担任・学校に相談してください。そして、最後まであきらめないことが希望する進路実現への近道となります。

